

中村直人 モニュメンタル／オリエンタル

中村直人(1905～1981年)は、長野県小県郡神川村(現・上田市)に生まれた芸術家。少年期に山本鼎の勧めによって彫刻家となり、次第に院展で認められるようになり。しかし1952年に一転、家族でパリに移住し、今度は東洋の色彩のグアッシュ※作品により好評を博するようになります。帰国後は二科展の会員となり、彫刻、絵画、版画など数多くの作品を手掛け、哀愁漂う女性像や裸婦像によってそのイメージを定着させました。晩年には目黒区にアトリエを構えて旺盛に作品を制作し続け、二科展の内閣総理大臣賞を受賞しています。本展では、中村直人の作品・資料をはじめ、直人に影響を与えた諸作家の作品も併せて展示。戦時中に制作された大型の記念碑的(モニュメンタル)な彫刻作品や、ヨーロッパで人気を得たオリエンタリズムあふれる絵画を通して、直人の異色の生涯をご紹介します。

※不透明水彩絵具のこと。



《草薙丸》1941年(静岡市立登呂博物館)



(仮題)《笛を吹く女》1952-64年(上田市立美術館)

年譜

- 1905年 長野県小県郡神川村(現・上田市)に生まれる。
- 1919年 山本鼎提唱「農民美術講習会」が神川小学校にて開催。実兄中村實参加、直人も彫刻家を志す。
- 1920年 日本美術院(院展)彫刻部同人・吉田白嶺の木心舎に入門。
- 1926年 再興第13回院展に木彫《清韻》初入選。
- 1929年 再興第16回院展に木彫《女子立像》等入選。翌年の再興第17回院展にて《道化役者》入選。
- 1936年 日本美術院同人に推挙される。
- 1937年 横山大観の推薦により通信員として中国大陸各地を視察。
- 1942年 真珠湾攻撃戦没《九軍神》像制作、のちに東郷神社に奉納される(戦災消失)。
- 1947年 戦争協力者に対する糾弾が高まり、同じく批判を受けていた藤田嗣治と親交を深める。
- 1952年 藤田嗣治を頼り、パリへと出国。
- 1953年 パリでの画家としての個展が成功。「ナオンドはパリを征服しにやってきた」などと称賛される。
- 1964年 帰国。滞仏作品展を各地で開催。
- 1965年 第50回二科展に《横臥する裸婦》等招待出品、会員に推挙される。
- 1971年 第56回二科展にて《裸婦》が青児賞受賞。
- 1974年 目黒区青葉台に転居。
- 1980年 第65回二科展にて《会合》が内閣総理大臣賞受賞。
- 1981年 敗血症にて死去。享年75。



《ピエロー一家》1954年(株式会社大丸松坂屋百貨店)



《裸婦(やすらぎ)》1971年(個人蔵)



目黒区美術館 〒153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36
Meguro Museum of Art, Tokyo Tel.03-3714-1201 <https://www.mmat.jp>

<メルマガ会員募集中> <https://service.sugumail.com/mmat/>

アクセス

- JR 山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線 「目黒」駅(西口)から徒歩10分
- 東急東横線・東京メトロ日比谷線 「中目黒」駅から徒歩20分
- 東急バス「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩5分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩3分
- ※目黒区民センター隣接
- ※当館には来館者専用の駐車場はございませんので、電車・バスなど公共交通機関をご利用ください。
- ※お車でのお越しの場合は隣接の目黒区民センターの駐車場(有料)をご利用ください。



詳しいMAPはこちらから

Naondo Monumental / Oriental



《ジャポネーズ》1950年代 小杉放菴記念日光美術館

中村直人 モニュメンタル／オリエンタル

1950年代パリ、画家として名を馳せた“彫刻家”

2023年7月15日(土)～9月3日(日)

午前10時から午後6時まで(入館は午後5時30分まで) 月曜日休館(ただし、7月17日(月祝)は開館、7月18日(火)は休館)

一般：800円(600円) 大高生・65歳以上：600円(500円) 中学生以下無料

※障がいのある方とその付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金 ※目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示頂くと団体料金になります(他の期月と併用はできません)
主催/(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館 協賛/(公財)北野生涯教育振興会 共同企画/上田市立美術館



目黒区美術館 〒153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36 Tel. 03-3714-1201 <https://www.mmat.jp>

なかむら なおんど 中村直人の一生

彫刻家を目指して

中村直人は、1905（明治38）年、長野県小県郡神川村（現・上田市）の養蚕農家に生まれます。兄は芸術家・山本鼎が開いた農民美術講習会第1回生の中村實。大正デモクラシーの影響色濃い上田で育ちました。1920（大正9）年には、兄・實の勧めと山本鼎の紹介により、木彫家・吉田白嶺の木心舎に入門します。丹念な人物の描写や、力強い猛禽類の彫り方には、師匠であった吉田白嶺の影響が表れています。

21歳になると、国内屈指の美術団体・日本美術院（院展）で初入選を果します。1936（昭和11）年には、院展務め内の最上位の地位に当たる同人（審査員を兼ねる立場）に推挙されるまでになりました。



《手品師》1932年（個人蔵）



《町娘》昭和初期（上田市立美術館）

の風景・風俗をひたすらスケッチしました。

また、軍の依頼もあり、兵士をモデルとした彫刻や、《防人》など時代を象徴するような記念碑的な大型作品を制作し始めます。旺盛に発表し続ける作品は独創的で、日本軍をモチーフとした《暁の進軍》ではエジプトやギリシャなど、古代の立体表現も取り入れられています。



《大同雲崗鎮石仏》1930年代（上田市立美術館）



《防人》1938年（愛知県美術館）

フランスにて、 オリエンタルな絵画で有名に

ところが、終戦になってから藤田嗣治（後のレオナール・フジタ）と親交を深めるようになった直人は、藤田の強い勧めを受けてパリに引越してしまいます。戦後の落ち着かない日本で、芸術の本場フランスに追従するような制作を続けているよりも、現地に乗り出していきたい、と考えた直人。1952（昭和27）年、一家をあげてパリへ移り住むことにしたのでした。

パリに渡った直人はしばらくホテル住まいをしていましたが、狭い部屋では思うように彫刻の制作ができず、次第に絵を描くようになります。そこで注目した画材が不透明水彩絵具・グアッシュでした。直人は厚塗りに適したグアッシュの特性を活かし、描いては紙を丸め、その上からまた絵の具を塗り重ねていき、わざとひび割れを起こして下の色を覗かせるという、独自の技法を編み出します。それによって生まれ

た奥深い絵肌が功を奏し、1953年、パリの画廊で開いた個展は大変な評判となり、地元の新報で「ナオンド・ナカムラはパリを征服しにやってきました」と絶賛されることとなりました。

渡仏後の直人は、東洋的・日本的なモチーフにも積極的に取り組んでいます。和服や仏教の五色（青〔緑〕・黄・赤・白・黒）を思わせる色使いは強烈に人の目をひきつけました。

また、彫刻家としての基盤をもつ直人は、平安時代や鎌倉時代の仏教美術に深い興味を示し、仏像の造形から身体の立体表現を学んでいました。作品を見ると、平面作品にもその経験が活かされていることが分かります。



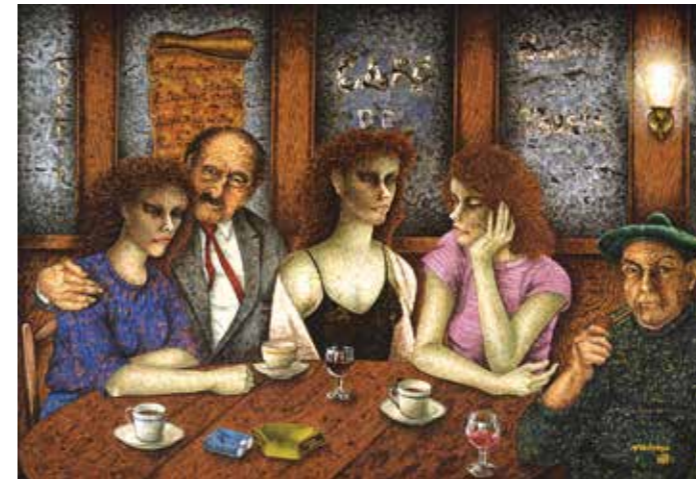
《大原女》1956年（長野県立美術館）



《クルン》1960年（上田市立美術館 [森工房コレクション]）

日本への帰国

パリ在住12年の間に国際的な画家としての地位を築いた直人は、1964（昭和39）年に日本に帰国します。東京・銀座で開催した滞仏絵画展は大評判を呼び、日本画壇への晴れやかな復帰となりました。1965年、大正初めから続く二科会に会員として招待され活躍し、1980年には二科展最高賞である総理大臣賞を受賞。翌年にこの世を去るまで、芸術家として活動し続けた人生でした。



《会合》1980年（長野県立美術館）

戦時期を象徴する モニュメンタルな作品づくり

1937（昭和12）年10月、日中戦争が勃発すると、直人は従軍を志願します。日本画家・横山大観の支援を得て通信員となった直人は、現地の様子を日本の雑誌や新聞で紹介する絵を描きながら、中国

ナオンド・ナカムラは パリを征服しにやってきました

1953（昭和28）年、パリ

展覧会関連催事

ギャラリートーク

戦時期の日本で着実に彫刻家としての地位を築きながら、戦後はパリで一転、画家として名を馳せた中村直人。展覧会場で作品を見ながら芸術家・中村直人についてお話しいたします。

7月29日（土）14:00～（1時間程度）
 講師：山極佳子（上田市立美術館 学芸員）
 会場：目黒区美術館 展示室
 定員：20名程度
 申込不要（ただし当日の観覧券が必要です）

ワークショップ 2023夏

グアッシュ（不透明水彩絵具）と和紙のしわを活かした独自の絵画がパリで大きな評判を呼んだ中村直人。今年の夏休みは、中村直人が使った絵具の魅力や和紙の加工技術などを楽しく探ります！

ワークショップ **（要申込）**

A：モニュメンタル・オリエンタルものがたる・あくしでんたる
展示作品を鑑賞しながら、遊びをとおして偶然できた色と形をヒントに作品づくりに挑戦。子どもから大人まで楽しめるプログラムです。

8月19日（土）、20日（日）10:30～16:00 [2日間講座]
 講師：メグロアソビ冒険隊
 会場：目黒区美術館 ワークショップ室
 対象・定員：小学1年生以上 20名
 参加費：1,000円（材料費・保険費含む）

B：グアッシュの魅力

グアッシュ（不透明水彩）はどんな特性があるのでしょうか。レクチャーや実践をとおして、画材の魅力に迫ります。

8月26日（土）10:30～17:00
 講師：山本晶（画家）
 会場：目黒区美術館 ワークショップ室
 対象・定員：高校生以上 12名
 参加費：2,500円（材料費・保険費含む）

画材の実験室 **（申込不要）**

美術の素材や画材を楽しく体験できるミニ講座。今回は中村直人の代表作にも使われた技法「もみ紙」と、これまで「画材の実験室」で取り上げてきた「鉛筆」「パステル」「木炭」「墨」を日替わりで開講します！

【もみ紙編】日時：8月1日（火）～5日（土）13:00～16:00
 【夏の復習編】日時：8月15日（火）～18日（金）13:00～16:00
 ナビゲーター：画材の実験室スタッフ（目黒区美術館学芸員他）
 会場：目黒区美術館 ワークショップ室
 対象：どなたでも（未就学児は保護者の方と一緒にご参加ください）
 参加費：無料（ただし当日の観覧券が必要です）

オンラインで美術館

うちんち!べちゃくちゃミュージアム **（要申込）**

子育て、介護…お出かけが難しい方や、子どもと美術館はちょっと心配という方も大歓迎!オンラインで美術館を楽しむプログラムです。開館前の美術館からの中継で「中村直人 モニュメンタル/オリエンタル」展と一緒に鑑賞してみましょう。

① 8月5日（土）9:30～10:00 ② 8月6日（日）9:30～10:00
 ナビゲーター：メグロアソビ冒険隊
 実施方法：オンライン（zoom使用）
 対象・定員：zoomが使える方 10名
 参加費：無料

※「ワークショップ2023夏 画材の実験室・夏休み編」各講座の申込方法、締切日、詳細等については当館ウェブサイトをご確認ください。
<https://www.mmat.jp>